

天城町立天城小学校 公開研究会

研究主題

自他を尊重し、よりよく生きようとする児童を育む道徳科の推進 ～「考え、議論する道徳」の充実を通して～

I 研究の全体構想

学校教育目標

自ら学ぶ意欲とユイの心をもち、気力あふれる天城小の育成

道徳教育目標

学校の全教育活動を通して、よりよい生き方を目指す道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

目指す児童の姿

- ☆ 自分の考え(意見)を自信をもって表現することができる。(R4)
- ☆ 相手の意見を尊重し、自分の考えを振り返ることができる。(R4)
- ☆ 自分や友達のことを大切にすることができる。(R5)
- ☆ 自分自身の生き方を見つめていくことができる。(R5)
- ☆ 自分はどうかすべきか、自分に何ができるかを判断することができる。(R5)

自他を尊重し、よりよく生きようとする児童を育む道徳科の推進 ～「考え、議論する道徳」の充実を通して～

II 研究の視点と内容

視点1 児童がより自分の考えを広げ、深めることができる **交流の在り方**

- (1) 自分の考え(根拠)をもつための手立ての工夫
- (2) 交流目的の明確化
- (3) 交流形態の工夫
- (4) 問い返し・切り返しの発問の工夫

視点2 児童の道徳的価値の高まりが分かる **板書の在り方**

- (1) 視覚化を図った板書の工夫
- (2) 構造的な板書の工夫

視点3 児童の道徳的実践意欲を高める **評価の在り方**

- (1) 道徳コーナーでの意欲喚起
- (2) 評価シートの活用

III 研究の実際

視点1 児童がより自分の考えを広げ、深めることができる **交流の在り方**

ネームプレート等で自分の考えや根拠を明確にした上で児童同士の交流をさせた。特に、3人組での交流を「どうぞ発表」とし、積極的に取り入れることで、児童が楽しみながら互いの意見を交流するようになった。交流させる際は、「自分と違う考えを見付ける」、「考えを広げる」など交流の目的を明確にした。また、更に児童の考えを広げ、深めるために、問い返し等の発問の工夫をした。今年度は、児童に「交流で使うよい言葉」を配布したり、画面に提示したりして、児童同士の交流の活性化を図った。



【どうぞ発表の様子】

視点2 児童の道徳的価値の高まりが分かる **板書の在り方**

板書の視覚化・構造化を図ることで、児童の思考を整理し、より自分の考えを広げたり深めたりできるようにした。また、中心発問の後に価値を高める発問をし、それを板書することで道徳的価値の高まりを感じられるようにした。



【児童の考えを可視化するための十字チャート(ネームプレート使用)】



【ジグソー活動へつなげるための考えの類型化】

視点3 児童の道徳的実践意欲を高める **評価の在り方**

道徳コーナーを設け、主題・挿絵・児童の道徳日記(振り返り)を掲示した。友達がどのように考えを深めていたのかなどに気付き、児童自身がより一層考えを深めたり、前回の内容を振り返って様々な角度から考えを深めたりすることができた。



【道徳コーナー】

評価シートは一人一枚作成し、書き込んでいくことで、一定の時間的なまとまりの中で成長を把握できるようにした。道徳教育の一環として、生活場面での変容について記入できる欄も設けた。

IV 公開研究会の様子

全体会 I・II



公開授業



分科会



公開研究会後のアンケートより

- ・ 児童に寄り添った授業でした。また、問い返しの仕方やグループ内での「発表→問い返し→理由」の発表の仕方が定着していて思考の深まりや広がりにとっても効果的だったと思います。
- ・ 一人一人が考えをもち、「どうぞ発表」において、それを伝え合う姿を見ることができました。
- ・ 児童の積極的な発言や活発な意見交換が見られました。板書も見やすく、児童も学習の流れなどが理解しやすかったのではないかと思います。
- ・ 児童が自分の意見を伝えたり、可視化したり、変容を感じたりするためにどうしたらよいか、板書やグループ構成など多くの視点で考えられていました。どのような方法があるのか、自分の学校でも共有したいと思いました。
- ・ 誰かが発表する際に、頷きや「同じ」などの声が聞こえてきました。また、自分自身の意見を堂々と言い、友達に伝えることができていました。